

3つの実現へ引き続き議会でも働かせてください



3 地震・津波対策



- 市中の被害状況・被害予測を即座に判断して、的確な避難誘導ができるシステムをつくりまします。
- 日頃から避難路、避難所、避難ビルを周知徹底し、避難訓練などをおこないます。
- 地域の協力も得て、避難の困難な子ども、高齢者、障がい者を援助する体制をつくりまします。

市の避難サポート体制を早くつくり 地域と連携して 誰もが身を守れるようにします

2 要支援外しに ともなう

先の通常国会で、自民・公明は要支援を介護保険制度から外し、市町村に移行する法律を強行しました。“保険あって介護なし”をましますとひどくすまいました。廃案を求めたためたまたまかいました。

1 新病院建設

- ① 急がず（2015年4月開院を延ばして）
「すぐに診てもらえる」「安心してお産ができる」「子どもの救急医療を」…こんな病院がほしい
- ② 市民の声にこたえた病院に
- ③ 新病院の運営は
“利益優先”を持ち込ませず
市民のいのち第一に
- ④ 現病院がなくなる地域の医療不安をなくします

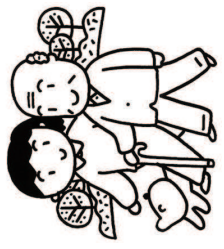


新病院完成予想図

自己努力、サービスおさえる “お手本” づくりをやめさせて 介護の必要な方みんなが安心できるようにします

黙っていたら大変！ 国から招いた副市長の主導のもと、地域包括ケアシステムをつくっています。その中身は国の模範モデル。このシステムも、“要支援”の新事業も悪いお手本づくりにさせてはなりません。

- 善意・自発性の住民主体ボランティアへ肩代わりさせず、現行水準の訪問介護・デイサービスの質と利便を保障します。
- 要介護認定の申請権を守り、「事前」の基本チェックリストは実施させません。
- 利用制限など「サービスからの卒業」の強要をさせません。
- 事業に必要な財政は、国の負担、市の一般財源からの繰り入れて、保障させます。



- 「津波でんでんこ」に学びます
1990年「津波サミット」で生まれた標語。三陸地方の言い伝えとも。

- ① 「自分の命は自分で守る」
我がためのみならず助かること＝助けること
- ② 「自分たちの地域は自分たちで守る」
- ③ 緊急時に災害弱者（子ども・老人）を手助けするという意味が込められています。